

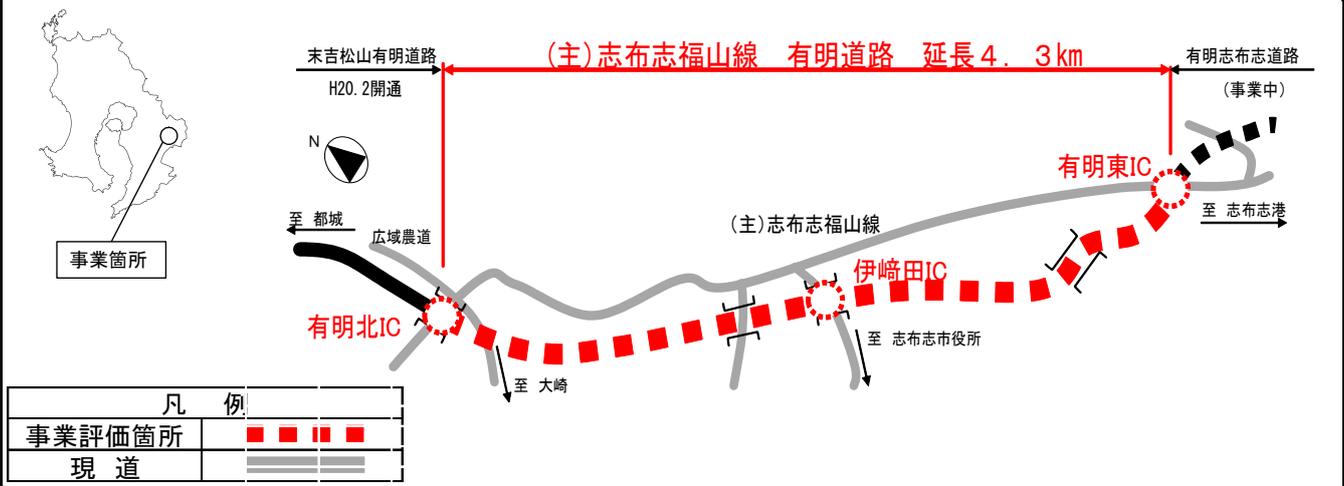
再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：環境安全課

担当課長名：森山 誠二

事業名	地域高規格道路 都城志布志道路 主要地方道 志布志福山線（有明道路）	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県						
起終点	自：鹿児島県志布志市有明町伊崎田 至：鹿児島県志布志市有明町伊崎田			延長	4.3km						
事業概要	有明道路は、宮崎県 都城市から鹿児島県志布志市に至る約40kmの地域高規格道路「都城志布志道路」の一部を構成する道路で、自動車専用道路として整備を行っている。九州縦貫自動車道、東九州自動車道と一体となった交通ネットワークを形成し、大隅半島における地域の物流及び交流の活性化を図ること等を目的とし、有明北IC～有明東ICまでの延長4.3km整備するものである。										
H20年度事業化	都市計画決定無し	H22年度用地着手	H23年度工事着手								
全体事業費	約120億円	事業進捗率	約74%	供用済延長	0km						
計画交通量	15,400～16,300台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 11.3	総費用 (残事業)/ (事業全体) 23/130億円 (事業費：21/129億円) (維持管理費：1.7/1.7億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 259/259億円 (走行時間短縮便益：198/198億円) (走行経費減少便益：44/44億円) (交通事故減少便益：17/17億円)	基準年	平成28年						
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.3(交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C=10.0～13.4(交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.8～2.2(事業費±10%)</td> <td>事業費：B/C=10.4～12.5(事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.9～2.1(事業期間±20%)</td> <td>事業期間：B/C=11.3～11.3(事業期間±20%)</td> </tr> </table>					(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.3(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C=10.0～13.4(交通量±10%)	事業費：B/C=1.8～2.2(事業費±10%)	事業費：B/C=10.4～12.5(事業費±10%)	事業期間：B/C=1.9～2.1(事業期間±20%)	事業期間：B/C=11.3～11.3(事業期間±20%)
(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.3(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C=10.0～13.4(交通量±10%)										
事業費：B/C=1.8～2.2(事業費±10%)	事業費：B/C=10.4～12.5(事業費±10%)										
事業期間：B/C=1.9～2.1(事業期間±20%)	事業期間：B/C=11.3～11.3(事業期間±20%)										
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交通ネットワークの構築（都城、大隅地域から重要港湾志布志港へのアクセス向上が広域的に図られる） ・物流効率化の支援（重要港湾志布志港へのアクセス向上、農産品の流通利便性が向上） ・災害への備え（第一次緊急輸送道路に指定され、災害時に緊急輸送活動の円滑化に貢献する） ・生活環境の改善（大型車の転換による沿道環境の改善が図られる） 										
関係する地方公共団体等の意見	都城市など3市で構成される都城志布志道路建設促進協議会等より早期整備を要望されている。										
事業評価監視委員会の意見	鹿児島県事業評価監視委員会において、審議の結果「事業継続」が妥当であると認められた。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年1月1日に松山町、志布志町、有明町が合併し「志布志市」となった。 ・都城志布志道路の松山IC～有明北ICが平成20年2月15日に開通した。 										
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・用地進捗率99%、事業進捗率74%（平成28年3月末時点） ・今後は早期完了を目指し、道路改良や舗装の工事を推進していく。 										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業規模が大きいことから長期化しているが、概ね計画どおり進捗している。										
施設の構造や工法の変更等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート二次製品の積極的な活用や再生骨材の採用等によりコスト縮減を図っている。 ・軟弱地盤上の構造物の基礎対策について、工法の比較検討を行いコスト縮減を図っている。 										
対応方針	事業継続										
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考える。										

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。